
黄昏のニュータウン

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄昏のニュータウン

【Nコード】

N6242N

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

何もかもが形を変えていく。失われたいものなど何もない。日暮れのニュータウンで、くたびれた顔で、パツとしない歌を歌ってる男がいたら、それが僕だ。

それはいつだって当たり前のように目の前にあって、声をかければ声が返ってきて、手で触れる事が出来て、温度を感じる事だって出来る。

あまりに当たり前すぎて、特に気に留める事もなく日々は過ぎていく。

月日と共に変化するものは確かにあって、昨日あったものがすり減って、昨日無かったものがそこに注ぎ足される。

喪失感はない。

漠然と何かを失ったような曖昧な感覚があるだけで、一体何を失くしたのか、それが分からないから喪失感は沸いてこない。

手にして、失って、手にしたものを失った感覚もないまま日々が過ぎて、過ぎてしばらくすると手にして失った事も忘れて、まるでそもそもそんなもの最初から無かったかのような退屈な日々がのっぺりと目の前に横たわって、自分は今の今までただ平坦な道を道なりに淡々と歩いてきただけのように思えて、その事に対する感慨も焦燥もなくて、日が登ればまた今日の労働が待っていて、考えるより先にいつも通りのステップを踏む。

疑念を抱く事もなく、ルーチンワークで明日を昨日に塗り替えていく。

ふと、何かの折に、失くしたものに指先が触れてしまう場面がある。

そこではじめて人は気付くのだ。

自分が一体何を失くしてきたのか。

赤いレンガの道の上で、ビール飲んでギター弾いて歌を歌って、今日会ったばかりの誰かが笑って、目の前の誰かが笑うと僕もやっぱり楽しくなる。

通りかかった誰かが僕の歌を聴いて、二言三言何かを言って去っていく。

顔を覆う笑顔の下にはそれぞれ別の何かが隠されていて、いいものも、悪いものも、嬉しい事も、悲しい事も、色んなものが絢交ぜに封じられていて、多少鼻を利かせたくらいじゃ嗅ぎ取れないくらいに、それは綿密に造り上げられた迷宮の向こう側にあって、無論僕なんかにはその迷宮を解き明かす事は出来ないんだけど、迷宮の向こうに「それがある」という事実だけ僕には分かっている、きつとそこにいる誰もがその程度の事を感じ取っていて、だから、僕程度の半端な歌うたいの発する音が、そこでは正しく響く。

再開発に失敗して、疲弊していくだけのニュータウンに未練は最早無い。

悲しんだ時期もあるけど、それも遠い昔の話だ。
涙はいずれ乾く。

それでもこの街の路肩で歌う理由が僕にはあると思ってた。
だから歌ってたし、その理由が損なわれたから歌わなくなった。
歌を歌う個人的な理由が無くなったからだ。

でも、僕が歌う理由の在り処は僕の中「だけ」じゃないって事を、
つい一昨日の夜思い出した。

それはいつだって当たり前のように目の前にあって、声をかければ
声が返ってきて、手で触れる事が出来て、温度を感じる事だって出
来た。

それなのに、失くしたところで、失くした事に気付く事もなかった。

失くしたものに再び指を触れて、その時はじめて思い出す事がある。

黄昏の街で、ひとりきりで、どんなにいい歌を歌ってみたって「い
い夜」にはならない。

僕は「いい夜」をいつも探してた。
でも見失った。

「いい夜」がもう二度と訪れないなら、歌う理由もない。
別に変な感傷じゃなくて、ただ億劫になって、夜歌いに出る事も無
くなった。

たまたま、ちょっとした知り合いがわざわざ東京のはずれのニュータウンにまで訪ねてきてくれた。

だから久しぶりにギターがかえて歌を歌った。

その夜の事を具体的にうたうた書くのも野暮だと思うから、最後一言でまとめようと思う。

いい夜だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6242n/>

黄昏のニュータウン

2010年10月10日05時47分発行